倉吉博物館 打吹山ウォッチングガイド（8 月下旬）

要注意　ーイラガの幼虫たちー

イラガの仲間は幼虫の時だけに毒針を持ったとげがついています。注射するしくみなっていますから、チクッとした後、最低翌日までは痛みがあります。

1. 見つけやすい種

ヒロヘリアオイラガ若齢

ヒロヘリアオイラガ終齢

幼虫の個体数が多いため、地面に落ちた糞が目立ちます。雨が降れば、溶けた糞が茶色になって地面を汚します。その上の葉を見れば、葉柄だけ残ったものがたくさんあります。近くに食べかけの葉があり、幼虫がいます。若齢の時は集団で整列して葉表を残して食べますが、大きくなると全体を食べます。糞の中には消化できなかったクロロフィルが大量に含まれます。クロロフィルは水に溶けないため茶色になって残り、目安になってくれるのです。

ヒロヘリアオイラガとヒメクロイラガが見つけやすい種です。大きくなった幼虫は産卵された枝から順次広がっていきますから、葉がない部分の縁の葉裏が要注意です。

ヒメクロイラガ

外来種のヒロヘリアオイラガはサクラにもっとも多くいますが、モミジなどいろいろな植物を食べる広食性です。背中に縦の青い筋があります。小判形のまゆを樹の根元に隠すようにつけていますので、そのような樹も幼虫のいる確率が高いと思われます。

ヒメクロイラガは短く黒っぽいとげが特徴です。カキに多いのですが、打吹公園ではサクラに要注意です。ケヤキも気をつけましょう。地下に潜って蛹化するため、まゆを目印にできません。

2. うっかりが危険な種

イラガ

幼虫の個体数が少ないため、探すことは難しい種です。そのため意識せず、葉を触ったりした時に刺されてしまうのです。食痕はあるのですが、たくさんの葉に隠れてわかりません。高木にいることが多く、蛹化のため降りてきたり、風雨で落ちてきた幼虫を見て存在に気がつきます。どの樹種にいるかわかりませんが、サクラ、モミジ、ケヤキは特に気をつけましょう。

アカイラガ

ナシイラガ

その中でもイラガ（No.34 気をつける必要の有無参照）は若齢幼虫の時に集団を作りますので、茶色に透けた葉でわかりやすいほうです。しかし、カキの葉で刺される被害にあうことの一番多い種です。

アオイラガは、ヒロヘリアオイラガでは背胸の朱色の毛が黒くなっているくらいですが痛さは同じです。また、クロシタアオイラガは灯火にきた成虫を見ましたのでいることは確かですが、出会っていません。

テングイラガ

ナシイラガも、ナシの木だけにいるわけではありません。アカイラガは少し小型で透明感のある幼虫ですが、肉質の突起にとげがあります。蛹になる時突起はとれますので、触るとなくなります。

テングイラガは毛虫らしく、小さな亀甲型をして葉に張り付いています。毒は弱く、緑色型もいます。

（倉吉博物館専門委員　國本洸紀　2024）